

軽米町町議会議員さんとの懇 談会

(二戸地域県立病院運営協議
会資料から)

今後の展望：
人口減少の進む県北から考え
る

令和8年1月21日

- 岩手県立軽米病院
- 院長 葛西敏史

現状：地域の人口動態

- 日本で年間に子供の生まれた数が**68万人**余
- 令和5年の死亡者数は**157万人**余
- 岩手県人口：現在120万人余だが2045年には**88万人**へ減る予想
- 軽米町人口：1960年には1万7,672人だったが、**現在7,987人**で、2040年には5,900人、2060年には**3,752人**まで減る予想



高齢化率：全人口における65歳以上人口の割合

日本	28.8%
岩手	33.0%
軽米	40%超



「お神輿」が「騎馬戦」になって、最後には「肩車」になる。

3.11後の道路の状況

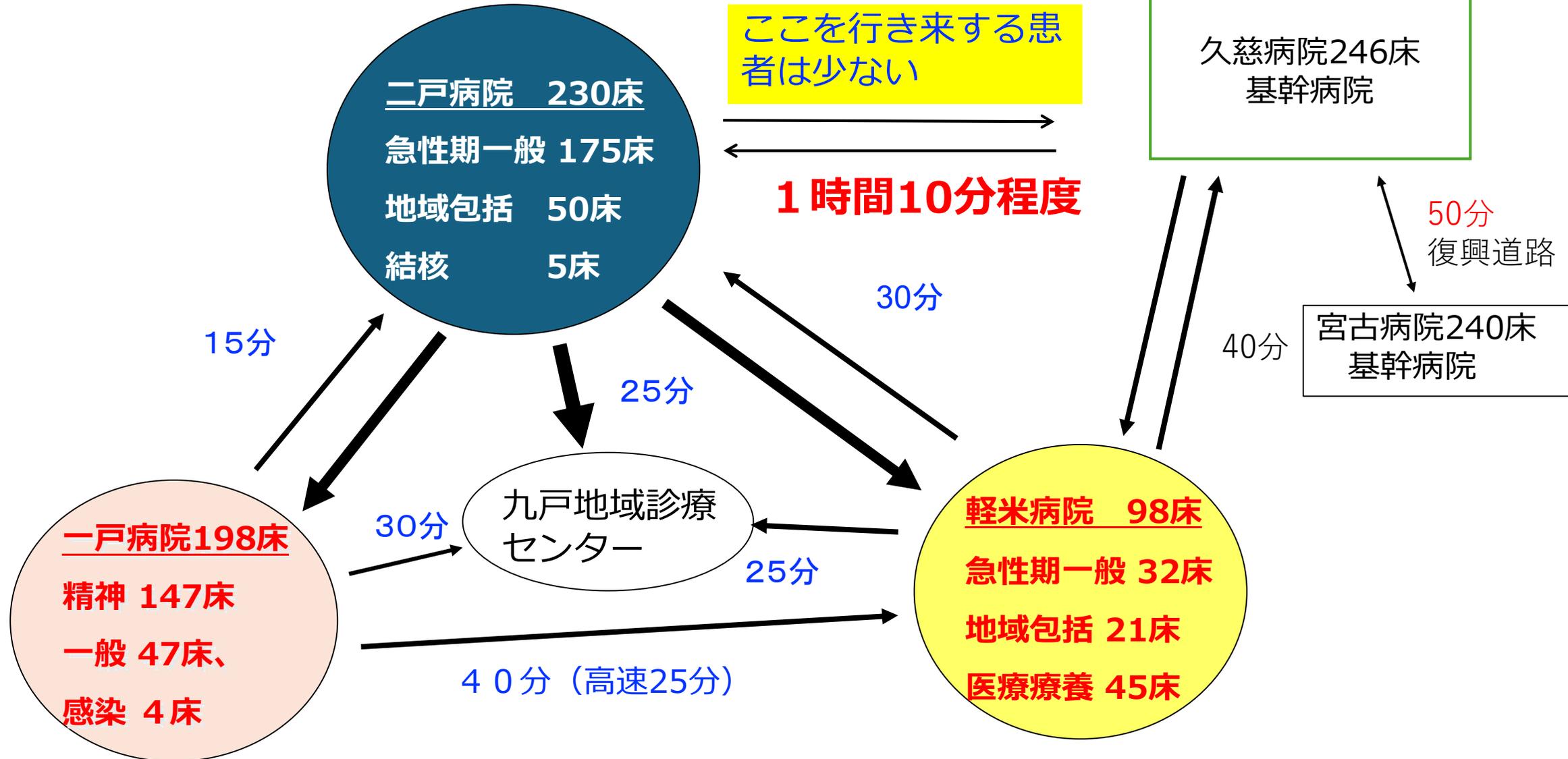
復興道路は仙台～八戸間で整備された。

沿岸と中心部とつなぐ復興支援道路は盛岡～宮古間、花巻～釜石間は整備されたが、県北（二戸～久慈間）は元来1時間10分程度ということもあり、整備計画には入っていなかった様子。

岩手の自治体立医療機関(常設)



カシオペア近辺の移動時間



レセプトデータから見る受療動向

はたして圏域のみで治療可能なのか？

二戸：外来 80.6%、入院 60.4%

→盛岡に20%以上、八戸に10%以上に流れる

久慈：外来 79.8%、入院 67.3%

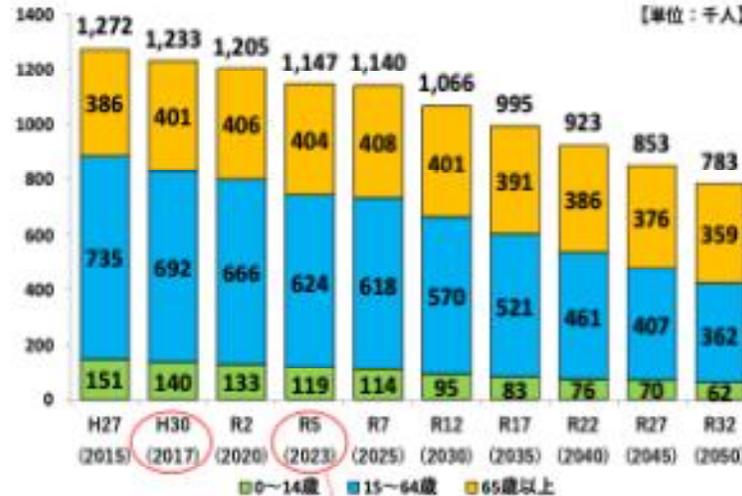
→八戸に20%以上、盛岡に5%以上に流れる

両圏域とも「がん」患者が50%ほど圏域を離れる傾向

2 県立病院を取り巻く環境（医療需要）

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計（令和5年）では、経営計画の計画期間の最終年（令和12年）には、年少人口が約9.5万人、生産年齢人口が約57.0万人、高齢者人口が約40.1万人となる見込み
- 計画期間中は、受療率の高い高齢者人口が概ね横ばいにとどまる見込みである一方、生産年齢人口が減少するため、医療従事者の確保が一層困難となるおそれ
- 中部・二戸では、2割以上の患者が盛岡で受療。久慈では2割以上が県外（八戸）で受療。復興道路等の整備により、患者の移動、搬送はより広域化

県内人口推計



資料：若手推 人口移動推計中報/国立社会保障 人口問題研究所 国推計人口（令和5（2023）年推計）

前回計画策定時（平成30年）と比較すると、年少及び生産年齢人口の減少が続いている。高齢者人口は、おおむね横ばい

受療動向



資料：令和元年度入院受療動向調査 若手県健康保険調査
 ※ 国民健康保険+後援高齢者医療制度+全国健康保険協会（協会けんぽ）
 全レセプトの取り込みデータ

カシオペア地域の医療提供体制の課題

- 二戸

- 消化器・循環器内科、外科、脳外科、泌尿器、整形、産婦人科、小児科、放射線科など各科揃っている基幹病院です。皮膚科、耳鼻科、眼科は大学からの応援。
- 盛岡以北で唯一産科と脳神経体制がある。放射線科は圏域をカバーして貢献。
- 救急車受け入れ数、1788台（令和6年度）。交通外傷は八戸中心。

- 一戸

- 精神科に強みがあり、訪問看護ステーションもある。内科は春から二戸病院がカバー。
- 救急車受け入れ数、181台。

- 軽米

- 内科4名。外科2名。小児科は半日（休業予定）。春からは内科・外科とも減る予定。
- 施設などからの高齢者救急を主に担当。但し、当直は大学からの医師派遣に大きく依存。
- 軽米町に訪問看護ステーションがない。
- 救急車受け入れ数、223台。

カシオペア地域の開業医数

- 二戸：小児科、消化器内科・循環器内科・透析（泌尿器）・外科・整形・皮膚科・眼科・耳鼻科・形成外科・脳外科・糖尿病と結構います。
- 人口も少ないため、1万人あたりの医師数は19.56人となり岩手県内では6位に位置し「医師少数地域」から外れています。
- 一戸：町内は循環器内科・呼吸器内科・内科の3名。小児科は廃業。小鳥谷と奥中山にも。
- 軽米：泌尿器科・外科の2名。

軽米病院の果たす役割

01

自分の病院だけを見ていてもダメ。広域の中での役割を考える。

02

高齢者救急：複数の疾患を抱えており、専門科にこだわらず、総合的に見ていく。

03

急性期と回復期（～療養）を併せ持つ「ケアミックス」の特徴を活かし、急性期の次を担う。

04

ACPも重要であり、どのように患者・家族に寄り添うのかを考える。

地域に不可欠な医療の最後の受け皿となる。

高齢者救急を主に、地域包括ケア、ACPの推進、患者フローの管理、近隣医療機関や施設との連携を強化。

多死社会のあとは？

二戸地域は2050年には最大で約50%の人口まで減るとの試算。

今後は、病院では病床も埋まらず、施設も空きが出てくると考えます。

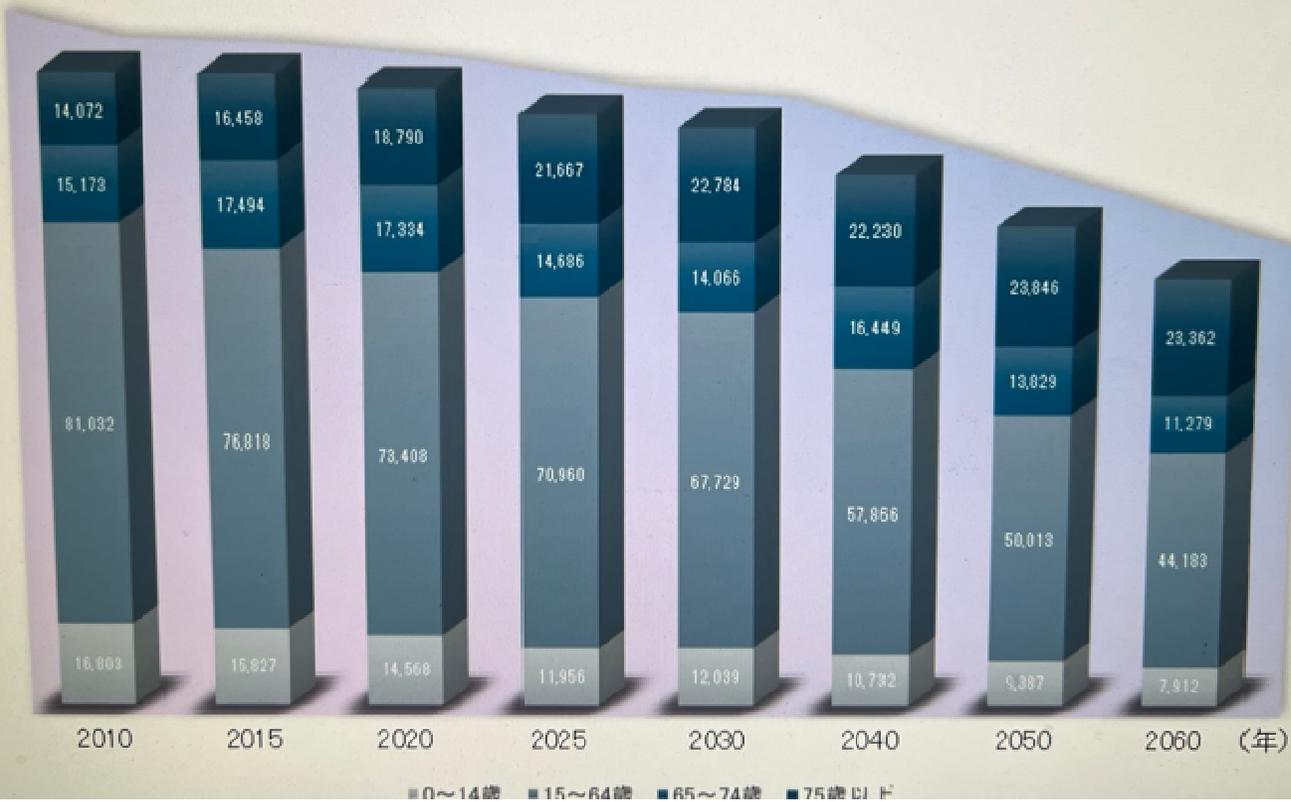
そんな時にどうやって生き残ることが出来るか？統合・再編？

まず地域に「なくてはならない」病院になること。

神野正博先生の講演（12/13）から ：日本の人口構成推計と構造の変化

日本の人口構成の将来推計

(国立社会保障・人口問題研究所データ)



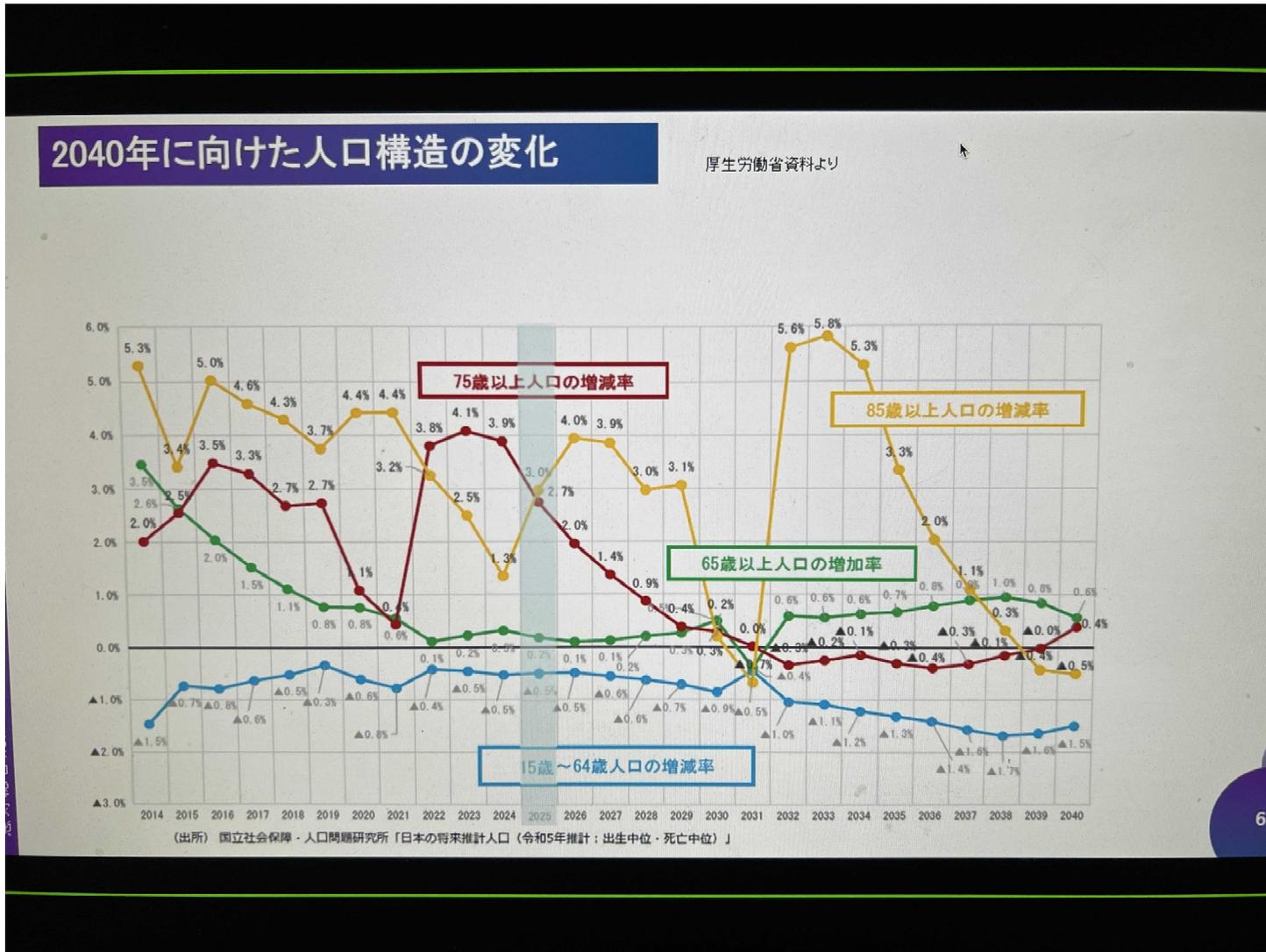
もう一度グラフを見て考えてみましょう。

人口減少は明らかですね。

生産年齢人口はずっと減少。

2050年ごろからは高齢者も減少。

先ほどのスライド内容を年代別に、折れ線グラフにすると、またわかることが。



- 75歳以上の後期高齢者の伸びはこれから減少していきます。
- そして、5年後の2030年から85歳以上の超高齢者が著明に増加。
- 85歳以上は要介護者でしょう。
- すると、タクシーは無いから救急要請はますます増えると思われる。

むすびに

人口減少と多死社会は避けて通れない現実。

地域にとって「なくてはならない医療」を守るために、病院だけでなく、医療・介護・行政と、そして住民が一体となって、この地域を支える仕組みを築く必要がある。

誰もが本気で地域を支える覚悟を持ち、必要な投資や支援を続けることが必要。
「我が町」のことなのです。

それを地域でどう乗り越えていくのか、現場の声を聞き、次世代に持続可能な地域医療を引き継ぐためには、議論と行動が必要と考えます。



軽米町議会からのボランティアです。
草取り、伐採で病院周囲もきれいになりました、ありがとうございました。

軽米病院の経営状況等について

軽米病院事務局

軽米病院の方向性

二戸圏域



資料：都道府県別将来人口推計（令和5（2023）年推計）
国立社会保障・人口問題研究所

地域医療構想の状況 (単位:床)

機能区分	R5.7.1現在	R7予定	R7必要病床数	差引
	A	B	C	B-C
高度急性期	0	0	31	▲ 31
急性期	283	283	134	149
回復期	50	50	91	▲ 41
慢性期	45	45	35	10
休床等	92	23	-	-
合計	378	378	291	87

資料：岩手県病床機能報告（令和5年度）

【圏域の特徴】

- 受療率が高い65歳以上人口は、横ばい(2025:20千人→2030:19千人)
- 盛岡、八戸圏域の双方に患者が移動
- 県立病院以外の病院がない

【病院の特徴】

	二戸病院	一戸病院	軽米病院
診療科	内科、精神、脳内、呼内、消内、循内、小児、外科、整形、脳外、皮膚、泌尿、産婦、眼科、耳鼻、リハ、放射、麻酔	内科、精神、脳内、小児、外科、整形、皮膚、耳鼻、リハ、歯科	内科、精神、小児、外科、リハ
病床機能	急性期175 回復期50 結核5	急性期47 精神147 感染4	急性期53 慢性期45
研修等	救急輪番、臨床研修病院、専門研修連携施設	救急告示	救急輪番

【方向性】

	二戸病院	一戸病院	軽米病院
基本方向	・ケアミックス・連携強化型の病院として、疾病・事業別医療圏内で、他病院と連携を図りながら、圏域における高度・専門医療を継続して提供	・地域密着での医療提供	・地域密着での医療提供
機能分化・連携強化	・地域に必要な診療科の常勤医確保に全力 ・回復期強化 ・がんにおける高度・専門医療等は、がん医療圏の拠点となる基幹病院と連携を強化 ・小児・周産期体制の強化	・在宅医療等の実施	・在宅医療等の実施 ・慢性期の医療ニーズの受入れ

岩手県立病院等経営計画
(2025-2030)

令和6年度決算の状況（県立病院全体）

- 令和6年度の病床利用率は、コロナ禍前と同程度の水準まで回復したものの、経常損益で△71.1億円と過去最大の赤字となった。（コロナ禍前の令和元年度は、病床利用率75%で収支均衡）
- 患者確保や施設基準の新規取得等により診療単価を向上させ、医業収益は、コロナ禍前と比較し38億円増加させているものの、給与費、材料費、経費等の医業費用が124億円増加しており、費用の増に診療報酬が見合わず、医業損益が大幅に悪化している。

〈単位：億円〉

	令和元年度	令和5年度	令和6年度
医業収益【A】	925.6	944.0	963.2
医業外収益	170.4	222.0	187.0
収益合計【B】 (うち一般会計負担金)	1,096.0 (155.6)	1,166.0 (185.9)	1,150.1 (169.0)
医業費用【C】	1,035.2	1,135.0	1,158.8
医業外費用	57.5	63.6	62.4
費用合計【D】	1,092.7	1,198.6	1,221.2
経常損益【B-D】	3.2	△ 32.6	△ 71.1
医業損益【A-C】	△ 109.6	△ 191.0	△ 195.6

〔費用増加
124億円の
主な内訳〕

給与費 + 65.0億円

- ・給与改定による月例給、特別給の引上げ
- ・働き方改革に係る職員増

材料費 + 23.6億円

- ・物価高騰による薬品、診療材料の値上がり
- ・高額薬剤（抗がん剤等）の使用増

経費 + 24.1億円

- ・最低賃金の上昇による委託料増
- ・電気料金、燃料費等の値上げ

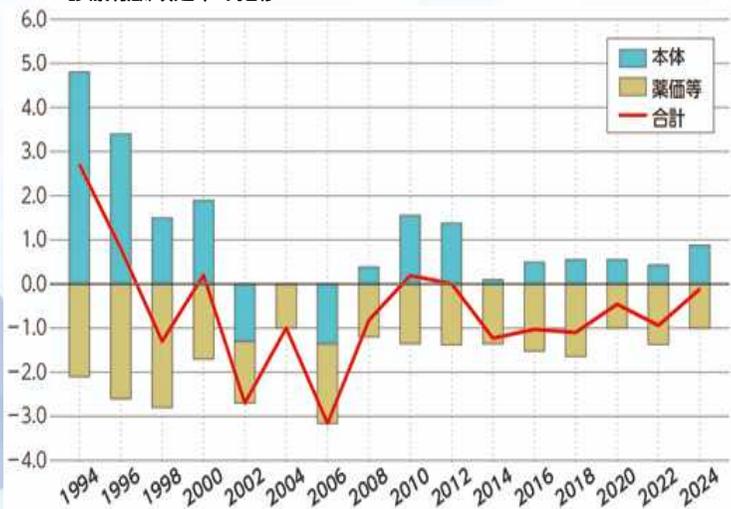
令和7年度現在の経営状況（県立病院全体）

入院患者確保による収益全体の向上と病棟削減等による経費の効率化等経営改善を図るも、**物価高騰や賃金上昇**により補助金等の医業外収益の変動を見込まない状況で**67.5億円の赤字**と推計。

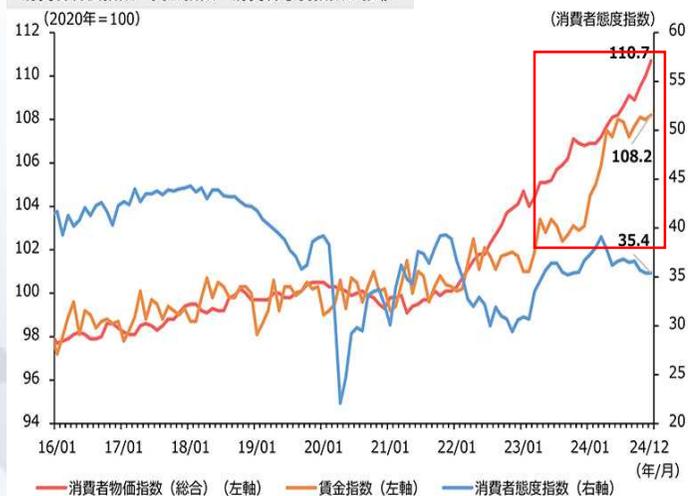
なお、国は今年度の補正予算で「医療機関・薬局における賃上げ・物価上昇に対する支援」を行う旨を公表しており、現時点で明らかになっている資料から試算すると、県立病院においては16億円程度の支援が見込まれ、仮に、年度内に交付決定がなされた場合は、見合いの収支改善が図られるもの。

年度末の資金繰りは、当初見込んでいた**45億円の病院事業債の借り入れ**により、現時点で**10億円程度の年度末資金を確保**できる見込み。

診療報酬改定率の推移



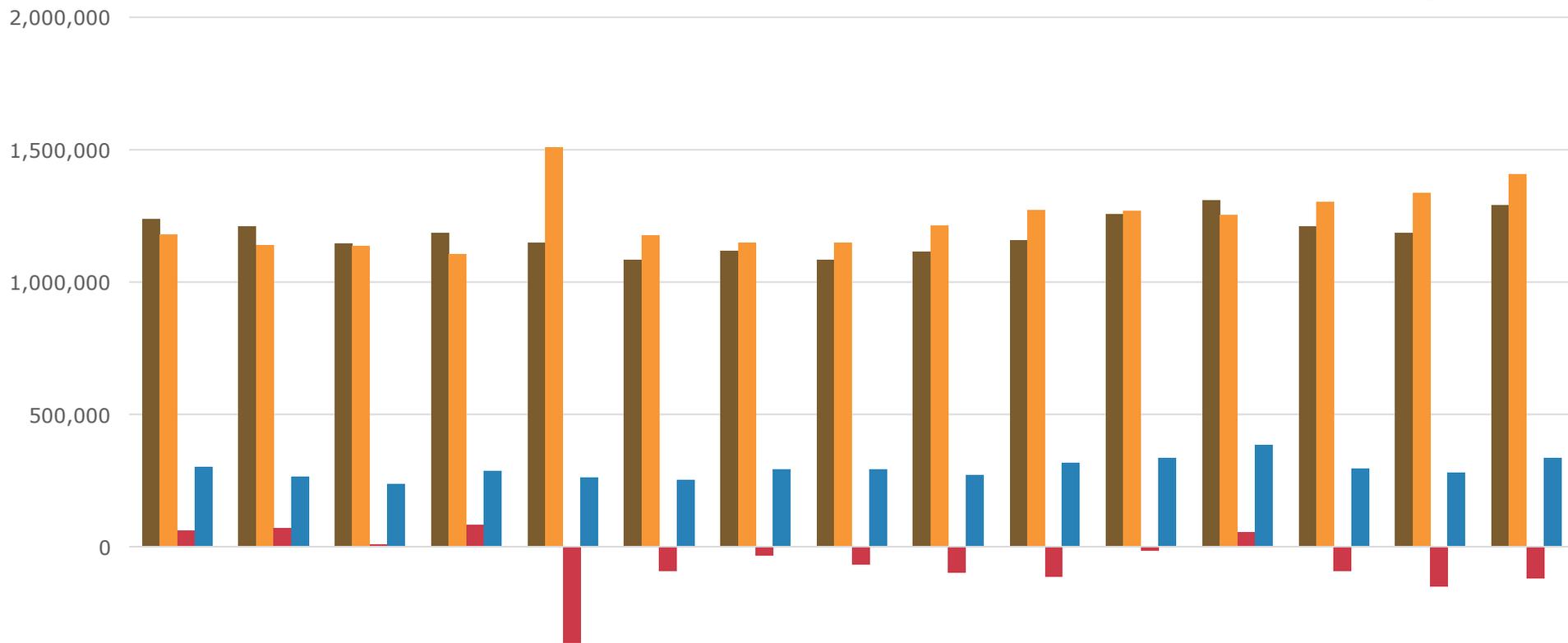
消費者物価指数・賃金指数・消費者態度指数の推移



資料：総務省「消費者物価指数」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」、内閣府「消費動向調査」

軽米病院の収支状況の推移

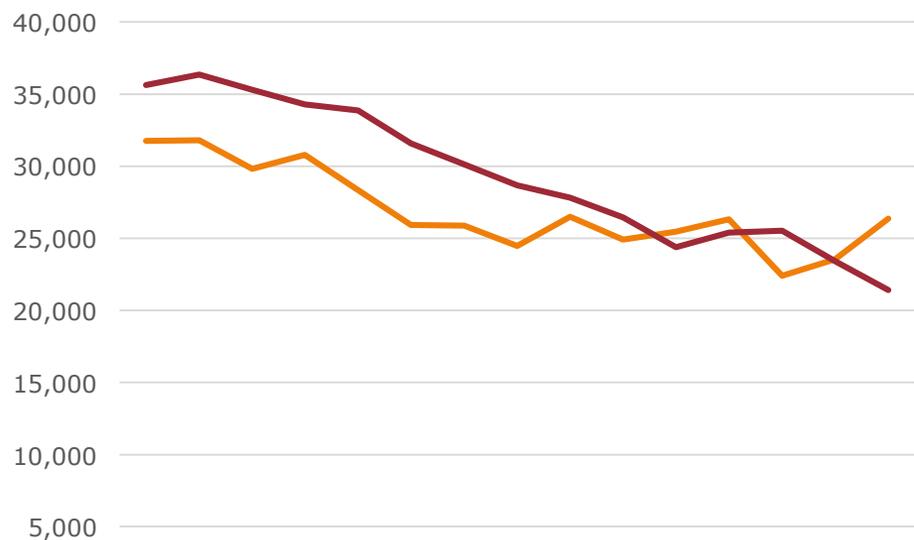
(単位千円)



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
■ 収益	1,238,080	1,209,040	1,143,212	1,185,218	1,146,094	1,084,777	1,115,583	1,083,377	1,114,713	1,158,319	1,255,261	1,308,129	1,209,095	1,185,222	1,289,328
■ 費用	1,177,820	1,139,512	1,135,473	1,104,871	1,508,622	1,174,598	1,148,667	1,148,313	1,211,864	1,271,437	1,267,918	1,253,151	1,299,850	1,336,260	1,407,137
■ 損益	60,260	69,528	7,739	80,347	▲ 362,528	▲ 89,821	▲ 33,084	▲ 64,936	▲ 97,151	▲ 113,118	▲ 12,657	54,978	▲ 90,755	▲ 151,038	▲ 117,809
■ 繰入金	300,166	261,954	233,946	285,214	260,920	250,304	290,756	291,350	269,012	316,272	332,688	382,763	294,621	279,491	332,630

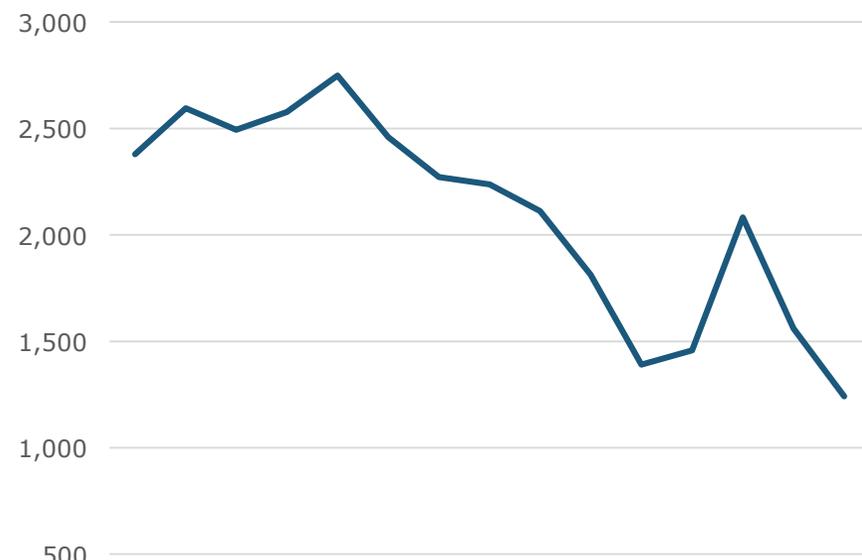
患者数の推移

延べ入院・外来患者数の推移 (単位:人)



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
入院患者数	31,757	31,817	29,837	30,793	28,352	25,911	25,874	24,474	26,487	24,906	25,463	26,308	22,391	23,532	26,364
外来患者数	35,627	36,365	35,310	34,296	33,872	31,585	30,125	28,680	27,802	26,442	24,385	25,381	25,517	23,398	21,408

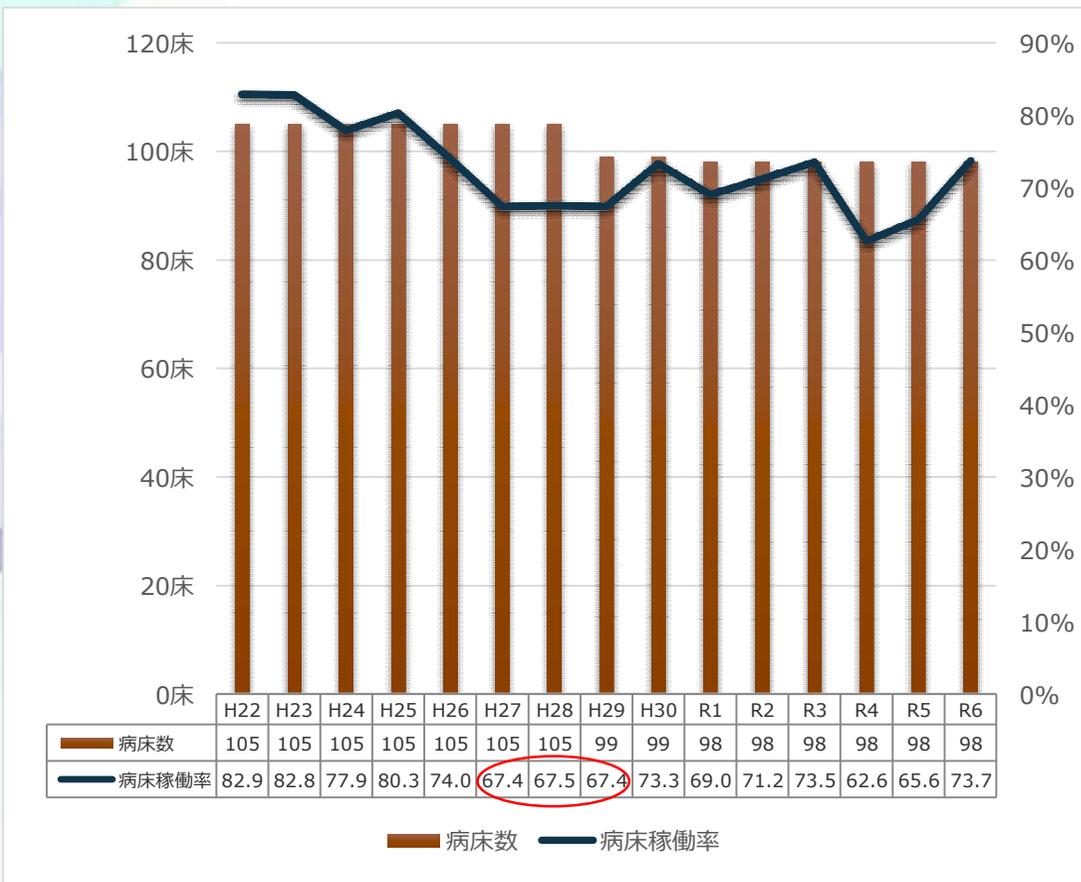
救急患者数の推移 (単位:人)



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
救急患者数	2,380	2,595	2,494	2,578	2,749	2,460	2,272	2,238	2,113	1,812	1,391	1,457	2,082	1,561	1,241
(うち救急車)	265	275	269	261	379	332	335	285	288	249	235	295	251	255	223

R6延べ入院患者数はH22比で27%減、外来患者数は40%減

病床数と稼働率の推移



○岩手県立病院等の経営計画

(2025-2030)

一般病床及び療養病床の病床利用率が、公立病院経営強化ガイドラインに示されている**過去3年連続して70%未満**となっている病院については、地域の医療ニーズを考慮したうえで、**病床機能、病床数・病棟数の見直し**を行う。

病床数見直しの状況（稼働病床数）

宮古 R6.4 一般▲34床
 江刺 R6.4 一般▲68床、結核5床
 遠野 R6.8 一般▲2床
 大船渡 R6.9 一般▲43床

今年度の経営状況 (令和7年11月末現在)

	累 計 (単位:千円・%)								
	今年度	構成比	費用 収益	前年度	構成比	費用 収益	比較増減		
	金額			金額			金額	増減率	費/収
1. 医業収益	611,287	97.5	-	610,391	97.5	-	896	0.1	-
1) 入院収益	462,948	73.8	-	458,044	73.2	-	4,904	1.1	-
2) 外来収益	118,483	18.9	-	123,509	19.7	-	△ 5,026	△ 4.1	-
小 計	581,431	92.7	-	581,553	92.9	-	△ 122	△ 0.0	-
3) その他医業収益	29,856	4.8	-	28,838	4.6	-	1,018	3.5	-
2. 医業外収益	15,695	2.5	-	15,577	2.5	-	118	0.8	-
収益合計	626,981	100.0	-	625,968	100.0	-	1,013	0.2	-
1. 医業費用	755,803	92.6	123.6	736,494	92.8	120.7	19,309	2.6	3.0
2. 医業外費用	1,090	0.1	-	676	0.1	-	414	61.1	-
3. 特別損失									
4. 共通管理費	59,302	7.3	9.7	56,889	7.2	9.3	2,412	4.2	0.4
費用合計	816,195	100.0	130.2	794,060	100.0	126.9	22,135	2.8	3.3
差引損益	△ 189,214			△ 168,092			△ 21,122	△ 12.6	
経常損益	△ 189,214			△ 168,092			△ 21,122	△ 12.6	

1. 患者数 (単位:人・%)

区分	入院		外来	
	月計	累計	月計	累計
7年度	2,211	17,668	1,652	13,931
6年度	2,337	17,773	1,668	14,444
増減	△ 126	△ 105	△ 16	△ 513
率	△ 5.4	△ 0.6	△ 1.0	△ 3.6

2. 病床利用率 (単位:%)

区分	一般病床		包括ケア病床		療養病棟		合計	
	月計	累計	月計	累計	月計	累計	月計	累計
7年度	82.6	79.3	87.8	84.6	64.1	65.1	75.2	73.9
6年度	78.1	73.2	92.5	89.5	74.4	68.1	79.5	74.3
増減	4.5	6.1	△ 4.7	△ 4.9	△ 10.3	△ 3.0	△ 4.3	△ 0.4

※期中の数字で前年同期との参考比較であり、概算値等が含まれるためR6決算値との比較対象とはならないもの

軽米病院の取組

○患者受入れの促進

- ・ 整形外科外来の開設（八戸日赤からの応援 月2回）
- ・ 近隣介護施設等との医療介護連携協定の締結（4施設）
- ・ 医療機関との連携の促進（葛巻病院・東八幡平病院・八戸市民・八戸日赤・南部病院等）
- ・ 介護施設等との連携の促進（軽米町・九戸村・洋野町等）
- ・ 地域医療福祉連携室だより発行
（医療機関44、介護施設等81、訪問看護ステーション5、その他11施設へ送付）
- ・ レスパイト入院の案内を近隣居宅介護支援事業所あて配布（20カ所）

○地域医療活動

- ・ 生活習慣病教室の開催
- ・ 小児健康教室の開催（町内小中学校対象）
- ・ 高校生を対象とした生活習慣病予防講演（二戸・久慈地域高校対象）
- ・ 糖尿病講演会の開催

※レスパイト入院

医療的ケアが必要な在宅の要介護者を短期間病院で受け入れ、介護者（家族）の負担軽減や休息を目的とした入院制度。